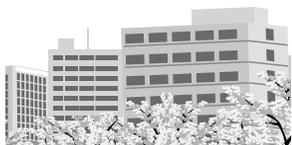


## 会員の広場



### 伝記(ついで)

『加藤セチと女性科学者たち』を読む

田川 修司 (東京)

今年の夏は異常な暑さ続きで、このような時には、涼しい静かなところでゆっくりと好きな書物を楽しむのが最高の贅沢なひとときです。五十年前、日本経営史というゼミを専攻しました。これは企業の設立から成長発展、衰退に至るまでの歴史を企業家の意思決定、組織構造の変化、市場環境との関係など

幅広く研究することでした。特に、企業家がどのように考え、行動をとったのか、社会に与える影響等を社会状況や文化的背景と関連付けて分析しました。当時の教科書は社史や伝記、シユンペーターの書籍が中心で、中でも伝記は読むたびに感動や学びをもたらし参考になりました。その様なことで、伝記に興味関心を持つようになりました。

最近ある企業のOB会の会報誌で『おセチちゃん』を知ってもらおう。』というコラムを読み、『加藤セチと女性科学者たち』という伝記に出会いました。加藤セチ(1893-1989)さんは大正時代から戦後にかけて活躍した女性科学者のパイオニアで「女性初の北海道帝国大学入学」「理化学研究所初の女性研究員」となったすごい方です。

セチさんは明治26年、山形の大金持ちの家

に生まれますが、生家の破産と父の死去で大変な境遇に。しかし、勉強家のセチさんは師範学校を卒業して地元の小学校の先生となります。そこから東京女子高等師範学校(現お茶の水女子大学)で物理や化学を学び、大正7年北海道の女学校の先生に。そして教師をしながら女子として初めて北海道大学農学部で学びます。大正10年に同郷の佐藤得三郎と結婚、翌年東京に戻り、その後理化学研究所に入所。化学分析の研究室で量子力学に興味を持ち、物理系の研究室に出入りし分光学を学びます。吸収スペクトルが化学分析に応用できることに気づくと、さまざまな物質の吸収スペクトルを精力的に分析し、化学構造や化学反応との関連を明らかにしていきます。

その成果は国際的にも評価され昭和28年女

性初の主任研究員となります。異分野との交流からヒントを得て新たな研究領域を創出した理研の特長を活かした研究者として活躍。背景には、セチさんの克己心、支えてくれた研究者たち、母キンさんと夫得三郎という生涯の良き理解者がそばにいたことが大きいと思います。日本の科学分野で女性が活躍する世界を開拓し、家庭婦人として初めて博士になられた素晴らしいパイオニアですね。セチさんのメッセージを最後に記します。

「いたづらに背景を持たぬことをかこち、社会制度の不備に不満を抱き、与えられる時の来るを空しく待つべきではない。叩けば裏木戸は開く、割り込んでゆかうと努力すれば小さな机は与えられる。その与へられたことに感謝し全精神を捧げて学ぶならば次第に光つてゆくであらう」